

# 医学教育学

担当指導医師

●本学

教授：田島 克巳、伊藤 智範（地域医療学分野）

特任講師：相澤 純

協力講座：解剖学講座細胞生物学分野

教授：齋野 朝幸

基本方針：

成人教育理論を学び、能動的学修方法を実践する作業をすることで、実際の医療現場において他職種スタッフや患者・家族への啓発活動に必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。また、専門課程をほぼ終了した時点で、解剖学と生理学という医学の基盤領域の知識が臨床医学とどのような関連があるかを逆引きする教育用 e-learning コンテンツを作製することで、医療プロフェッショナルに求められる後進育成のマインドを培うことができる。

実習内容：

1. 実際の授業の一部で、能動学修を実践する（具体的には、レスポンスアナライザーによる演習、TBL、PBL、反転授業）。
2. 上記に必要な教材を作製する。
3. 実際の国家試験レベルの問題集をもとに、病態を理解する上で必要な基礎医学的知識を整理する。その上で、逆引きできる e-learning コンテンツの作製をおこなう（過去3年間分の国家試験過去問を洗い出す）。その際、QB のような単なる解説文だけではなく、応用の効く知識となるように解剖学・生理学・病理学・微生物学等の成書をもとにした内容にする。
4. 臨床上、良く見る症例をもとに（例：本学のオープン問題）、上記同様の逆引き e-learning コンテンツの作製を試みる。
5. 上記コンテンツを WebClass に載せて低学年の学生に使ってもらう。
6. 5 のアンケート調査を行うとともに、知識の定着を評価して、コンテンツの内容のブラッシュアップを行う。なお、ブラッシュアップ対象には、前年度の学生の作ったコンテンツも含める。
7. 研究室配属の下級生チームが来室している場合は、上記を共同で行う。

その他：

ヒポクラテスの時代から「後進育成」は医療人の責務であり、医師は医療チームにおけるリーダーとしての役目を負っている。今のところ、伝達技法は国家試験や OSCE のような試験で評価されることは無いが、将来的に実社会ではすぐ役に立つものである。

授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用区分  | 使用機器・器具等の名称    | 個数 | 使用目的            |
|-------|----------------|----|-----------------|
| 実習用機械 | 短焦点プロジェクター付き白板 | 1  | プレゼン技法修得        |
| 実習用機械 | バーチャルスライドシステム  | 1  | e-learning 教材作製 |
| 実習用機械 | レスポンスアナライザー    | 30 | 能動学修実践          |